

[成果情報名]極早生で、着色と食味に優れるオウトウ新品種候補「オウトウ山梨6号」の開発

[要約]「オウトウ山梨6号」は、「高砂」より早く収穫始めとなる極早生品種候補である。大玉で糖度も高く食味がよい。また、果皮は濃赤色に着色し外観も優れる。

[担当]果樹試・育種部・落葉果樹育種科・新谷勝広

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

山梨県のオウトウ栽培は、早生品種では「高砂」が主力であるが、さらに早く成熟し、食味や外観、栽培性に優れる極早生品種の開発が望まれている。そこで、極早生の本県オリジナル品種の開発を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 「オウトウ山梨6号」は、平成14年に大玉で着色が良く高品質な「紅てまり」と極早生の「豊錦」を交雑して選抜した極早生品種である。
2. 開花期は「高砂」より4日程度早い。成熟期は果樹試験場雨よけハウス(標高440m)において、「高砂」より5～7日程度早い(表1)。
3. 果実重は7g程度、糖度は19°Brix以上となり、酸含量は「高砂」と同程度かやや低く、食味は良好である(表2)。
4. 果皮は赤色で着色に優れ、完熟すると濃赤色となる。果形は心臓形で、玉張りが良いとやや角張った形状となりやすい(表2、図1、2)。
5. 双子果の発生は「高砂」より多い。また、満開後30日頃から生理落果の発生が見られる(表1)。

[成果の活用上の留意点]

1. 本品種候補は開花期が早いため他品種との交互受粉には適さないが、貯蔵花粉(ナポレオン)を用いた人工受粉により十分な結実が得られる。
2. S遺伝子型はS⁶S⁶であり、「高砂」「富士あかね」「佐藤錦」「紅秀峰」などの主要品種と交雑和合性がある可能性が高い。
3. 樹姿は親品種の「豊錦」に似て枝梢の発生はやや少なく、枝は開張しやすい。軸抜けは「豊錦」より発生し難い。

[期待される効果]

1. 県内で最も早く収穫できる極早生品種の一つとして県内への普及が期待できる。

[具体的データ]

表1 「オウトウ山梨6号」の生育特性(2010~2014年)

品種名	試験区	台木	調査樹 齢(年)	開花 始め	満開	収穫始 め	収穫盛 期	軸拔 け	生理 落果	双子 果
オウトウ 山梨6号	原木 ^{z)}	自根	8~12	4/5	4/8	5/27	5/30	難~中	少	やや多
	複製樹 ^{y)}	高接ぎ	3~4	4/6	4/8	5/29	6/1	難~中	少	やや多
高砂		アオバザクラ	13~17	4/9	4/12	6/3	6/6	難	無	少

* 果樹試験場内雨よけハウス(山梨市江曾原、標高440m)での調査結果

z) 原木は樹勢衰弱のため果実品質データは2013年まで使用

y) 2013、2014年2カ年のデータ。中間台:「高砂」。台木:「アオバザクラ」

表2 「オウトウ山梨6号」の果実特性(2010~2014年)

品種名	試験区	果形	果皮色	着色の 多少	果肉の 粗密	果実重 (g)	糖度 (° Brix)	酸含量 (g/100ml)
オウトウ山梨6号	原木	心臓	赤	多	中	6.5	19.1	1.00
	複製樹	心臓	赤	多	中	7.2	20.7	1.19
高砂		心臓	赤	多	中	7.5	20.8	1.13

* 注釈は表1と同じ



図1 「オウトウ山梨6号」の果実外観



図2 「オウトウ山梨6号」の果実内部

* 核の大きさは「高砂」と同程度に大きい

[その他]

研究課題名: オウトウ新品種の育成

予算区分: 県単

研究期間: 1988~2014年度

研究担当者: 新谷勝広、竹腰 優、雨宮秀仁、佐藤明子、三宅正則、猪股雅人、富田 晃、手塚誉裕、櫻井健雄